

3.3 河川環境等の維持・保全対策

3.3.1 多自然川づくりの推進

1) 施策の内容と目標

国土交通省は、管理区間において綾瀬川の水辺空間の整備について検討する。

埼玉県は、綾瀬川本川の埼玉県管理区間において河川改修を実施する場合、多自然工法を採用し、水質改善および生物の生息環境の保全等に努める。

また、越谷市は、流入支川である末田落しにおいて多自然護岸等の整備を促進する。

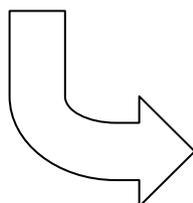
2) 施策の進捗状況

越谷市が、綾瀬川に流入する末田落しの改修工事に併せて多自然護岸整備を実施している。

※「多自然川づくり」は、平成18年に「多自然型川づくり」から変更。



完成直後（H16年撮影）



現在（平成21年9月撮影）

図 3.3.1 末田落しの多自然護岸（かごマット）

3.3.2 ビオトープの整備

(1) 大曽根ビオトープ

1) 施策の内容と目標

国土交通省では、八潮市大曽根地区においてビオトープの整備を実施する。大曽根地先（綾瀬川左岸 10k 付近）は、綾瀬川下流部において唯一高水敷が形成されている地区であり、ヨシ原や池が見られるなど、綾瀬川の中でも自然度の高い地区の一つとなっている。周辺の貴重な生態系や湿地帯の保全を図るとともに、綾瀬川の水質浄化対策についても検討していくものである。

2) 施策の進捗状況

大曽根ビオトープは、魚類、底生動物、鳥類の生育・繁殖場の創出を目的に、平成 19 年度に整備された。

市民の意見も取り入れながら整備が進められ、完成後は、市民主催の夏休み自然観察会等もおこなわれており、新たな活動の場となっている。

住民団体が中心となって実施した自然環境モニタリング調査の結果、大曽根ビオトープで確認された魚種数は平成 11 年の 5 種に比べ、平成 21 年は 18 種となっており、約 4 倍に増加している。平成 21 年の河川水辺の国勢調査の結果では、魚類は 4 目 9 科 24 種（うち重要種 3 目 3 科 11 種）、鳥類は 10 目 24 科 44 種（うち重要種 4 目 4 科 5 種）が確認されており、種数および個体数ともに増加していると報告されている。また、ヨシ原ができることによって、綾瀬川の汚濁負荷削減に寄与できる空間として期待されている。



整備前



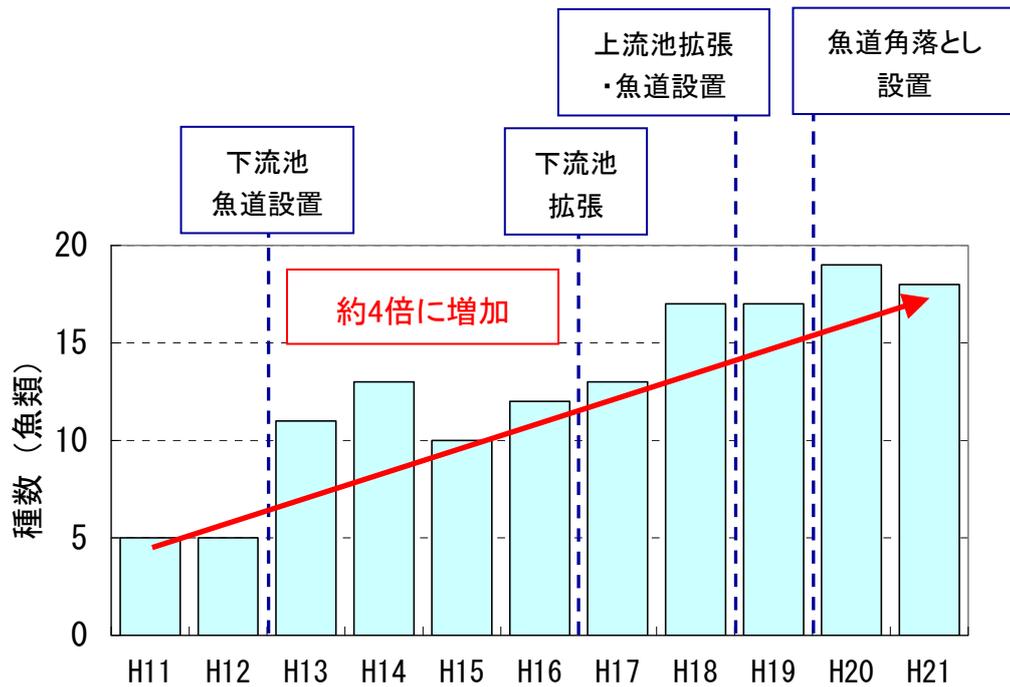
整備後



図 3.3.2 大曽根ビオトープの整備前後と航空写真



図 3.3.3 大曽根ビオトープでの自然観察会



※自然環境モニタリングによる調査結果

図 3.3.4 大曽根ビオトープで確認された魚種数の推移

(2) 桑袋ビオトープ公園

1) 施策の内容と目標

足立区では、伝右川および毛長川の合流点に設置される桑袋浄化施設の上部を利用した桑袋ビオトープ公園の整備を行う。また、国土交通省と併せて流域活動の交流・綾瀬川の情報拠点となる整備に努める。

2) 施策の進捗状況

桑袋ビオトープ公園は、平成 17 年 5 月に開園し、園内には、ため池やハス田、観察デッキが整備され、生き物たちが自然と集まり暮らすことができる公園づくりがなされている。

また、綾瀬川や身近な生き物について学べる「あやせ川清流館」も併設され、館内には解説員が常駐しており、ビオトープや綾瀬川についての解説、イベントも開催されている。

平成 22 年は、水生生物調査やため池のかいぼり、その他イベントなどで 23 種の水生生物が確認されている（平成 20～23 年では延べ 34 種）。



図 3.3.5 桑袋ビオトープ公園（イラストの出典：桑袋ビオトープ公園パンフレット）



※桑袋ビオトープ公園より提供

図 3.3.6 公園内で見られる水生生物（左：アカオビシマハゼ、右：テナガエビ）

表 3.3.1 桑袋ビオトープ公園でみられる水生生物

	目	科	種	平成20年	平成21年	平成22年	
魚類	コイ	コイ	モツゴ	○	○	○	
		ドジョウ	ドジョウ	○	○	○	
			コイ		○		
	スズキ	ハゼ	ヌマチチブ	○	○	○	
			アベハゼ	○			
			アカオビシマハゼ		○		
ウナギ	ウナギ	ウナギ	○				
甲殻類	エビ	ザリガニ	アメリカザリガニ	○	○	○	
			クロベンケイガニ	○	○	○	
		テナガエビ	モクズガニ		○		
			スジエビ	○			
			テナガエビ		○	○	
両生類	カエル	アカガエル	ウシガエル	○	○	○	
			ニホンアカガエル		○		
貝類	マルスダレガイ	シジミガイ	シジミの仲間	○	○	○	
	有肺目	サカマキガイ	サカマキガイ			○	
昆虫類	コウチュウ	ゲンゴロウ	ハイイロゲンゴロウ	○			
	アメンボ	アメンボ	アメンボ	○	○	○	
	マツモムシ	マツモムシ	コマツモムシ	○	○	○	
	トンボ	アオイトトンボ	オオアオイトトンボ	○	○	○	
			アオモンイトトンボ	○	○	○	
			アジアイトトンボ	○	○	○	
		トンボ	トンボ	アキアカネ	○	○	○
				コシアキトンボ	○	○	○
				シオカラトンボ	○	○	○
				オオシオカラトンボ		○	○
				ショウジョウトンボ	○	○	○
				チョウトンボ	○	○	
				ナツアカネ	○		
				ウスバキトンボ	○	○	○
				ノシメトンボ			○
		ハグロトンボ			○		
	ヤンマ	ギンヤンマ	○	○	○		
ハエ	ナガレアブ	ナガレアブの仲間	○				
確認種数				25	25	23	

※桑袋ビオトープ公園より提供

※他にも、ミジンコの仲間、ユスリカの仲間の幼虫、ヒルの仲間、カゲロウの仲間の幼虫等も確認されている

3.3.3 自然再生事業の推進

1) 施策の内容と目標

綾瀬川流域における水辺の自然環境の保全・創出及び再生は、現在の事業計画との整合及び今後進められる整備計画の具体的な内容に合わせて、関係機関が連携して検討を進めていくものとする。

都市化によって用地の確保が困難な綾瀬川等の自然環境の保全、創出及び再生にあたっては、河川沿いにできるだけ広い土地を確保することが重要であることから、長期的には現在の計画区域の見直しについても、今後の周辺の社会経済状況の変化を見据えながら検討することが必要と考える。また、河川内の自然の多様性と連続性を確保するため、河川敷に残る自然地とそれらを結ぶための新たな植生帯を水際に確保することや、魚類等の生息に配慮し、水際部に縦断的に変化のある形状となるよう工夫することに努める。

2) 施策の進捗状況

草加市新栄町付近では、ビワやナンテンなど鳥の好む木を植えた「鳥と友だち広場」などが整備され野鳥の聖域（バードサンクチュアリ）となっている。通年見られる鳥として、コサギやカルガモ、ハクセキレイなどがいる。

また、さいたま市にある馬込河畔林は、生き物が多く生息する環境であり、水環境モニター交流会や流域親子見学会でも野外見学を行っている。



図 3.3.7 綾瀬川バードサンクチュアリ



図 3.3.8 馬込河畔林での生き物観察